

# 令和5年度病害虫発生予報第11号（2月）

令和6年1月30日  
愛知県

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	べと病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量は平年並が多い	± ±～+
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	灰色かび病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	黄化葉巻病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	すすかび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間は平年並か少ない	－ ±～+
	うどんこ病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナス (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±

### ・防除対策

[トマト、ナス、キュウリ、イチゴ・灰色かび病]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第16号」を参照してください。

[ナス・ミナミキイロアザミウマ]

日射量が多くなり、施設内の気温が上がってくるとミナミキイロアザミウマの増殖スピードが速まります。グレーシア乳剤などで防除しましょう。

### ・留意事項

タマネギのべと病、白色疫病は、暖かく降水量が多いと発生しやすくなります。天候やほ場の状況に注意し、予防散布を行いましょ。タマネギ紅色根腐病が多発しているほ場があります。紅色根腐病は土壌伝染するため、次作の作付け前に土壌消毒を行いましょ。

トマト黄化葉巻病が発生しているほ場があります。タバココナジラミによって病原ウイルス(TYLCV)が媒介されますので、黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内に設置し成虫を捕殺しましょ。薬剤防除の際は同系統の薬剤を連続して使用するのは避け、気門封鎖剤も活用しましょ。また、発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょ。

ナス黒枯病が発生しているほ場があります。発生を確認したら、罹病葉をできるだけ取り除きパレード20フロアブルなどで防除しましょ。

イチゴのハダニ類が多発しているほ場があります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょ。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらへの影響日数に注意して農薬を選定しましょ。

## 果樹

### ・留意事項

カンキツ黒点病の病原菌は枯れ枝で越冬し、次作の第一次伝染源になります。せん定時に枯れ枝の除去を徹底し、本病の越冬伝染源（第一次伝染源）を減らしましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台1月25日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率>

〔 気 温 〕 低 い：10% 平年並：20% 高 い：70%

〔 降 水 量 〕 少 ない：20% 平年並：40% 多 い：40%

〔 日 照 時 間 〕 少 ない：40% 平年並：40% 多 い：20%